

東海地区 現代俳句協会 会報

第77号
令和5年3月31日
東海地区
現代俳句協会

モナ・リザからの贈り物

西尾市在住・画家

齋藤 吾朗

こんには齋藤吾朗です。戦後の何もない一九四七年の生まれです。だからか絵を描く事が一番幸せでした。お腹が空いていても絵を描いていれば幸せなので、家中の落書きは仏壇の扉にも及びました。でも母は何時怒らず褒めてくれ、絵を描くと喜んでくれるので、大きくなったら絵描きになりたいと思いました。

絵描きになる為には東京の大学からパリに行く事が必要だと思ひ込みました。でも当時は学園紛争が盛んな頃で、誰もが戦争ごっこみたいな事をしていました。私は右腕を折ったら描けなくなるからと、ひたすらに絵を描く事に専念しました。学生時代はアルバイトでお金を貯め、卒業後は初任給一万円位の高校教師になりました。一ドルが三百六十円の時代です。ヨーロッパに行くにはとてもなお金がかかる時代でした。あれこれ調べ当時格安のソ連の飛行機が、通常の半額の往復

二十四万円でしたので、二十六歳の時に憧れのパリに行く事が出来ました。

憧れのルーブル美術館に行つて、受付のお姉さんに、モナリザを模写したいと言ったら大声で笑いだし、とても難しいことが其処で分かりました。それで副館長のところに毎日通つて、肩揉みとか浮世絵の切手をあげたり、ゴマを擦つたんです。念願叶い副館長にデッサンを見せたら、「お前には負けたよ」って模写が許されました。一九七三年の事です。

それまで公認されたモナリザの模写は、マルクシャガールだけで、五十年間禁止されていたんですね。彼の模写は第二次世界大戦時に無くなっています。だから私の模写作品は貴重品で、ルーブル美術館から大事にしてくれつて言われております。模写は原寸では描けませんので、本物より1cm大きく描きました。描く過程で気が付きましたが、モナリザはダヴィンチのお母さんじゃないかと感じま

した。持ち帰った模写作品を母がとても喜び、近所に担ぐようにして見せて回つたんですね。それを模にしました。

私の絵は俳句的だと思います。中学校で俳句に接し高校時代の授業でも俳諧連句がありました。一九八六年ニューヨークで個展をさせて頂きましたが、ジャズ歌手の方から、お前の絵はジャズだと言われたので、モナリザを担いだおばあさんのジャズを絵にしました。俳句コンサートも開催しました。其の後も各地の展示会で俳諧連句会を開催しています。

熱田神宮の宝物館に展示された絵は、日本武尊が宮津姫に草薙剣を渡してからの歴史を描きました。信長堀に豊臣秀吉や徳川家康暴れん坊將軍に光圀公もいます。大正時代までのいろんな人の繋がりを絵にしました。俳句という取合せと思います。俳句をやつた事で私は他の人が描けない何かを描く事が出来ました。

私の絵は「赤絵」と云われます。赤い糸という縁起の良い絵だと思っています。俳句の世界も人と人の繋がりがだと思ひます。また何かで縁があるかと思ひますが、命ある限り絵を描き続けたいと思ひます。ご清聴ありがとうございました。

講師紹介

歴史や地元の情景と身近な人々たちをモチーフに、赤を基調とした独特な絵を描く。ルーブル美術館公認にて、モナ・リザを日本人で初めて模写した経歴を持つ。



青年部だより

■第五回ジャズ句会 ■十一月五日
秋うらら飛行機雲のがらんどう

父ゆきて鴉なきをる短く 藤川 夕海
可惜夜のコートレーンと蒼き月 有本 仁政

四季桜あした娘は嫁げをり 山内 基成
まだビルが語りつづける焚火かな 稲葉 千尋

小鳥来るもう君のこと忘れたよ 岡村 知昭
秋うららデューク流るるカーラジオ 三島風々海

一つ家にジャズの流るる柿の秋 野口 良江
髪を梳く鏡に昇る十三夜 松本 充裕

手から手へ渡すことばもみぢせり 岡田真由美
窓越しの児戯声高く小春かな 永井江美子

横顔は風来人や芒原 且空
2つ目の月の話をギムレット ひらの浪子

実さくろや我を流れし野性の血 菊山 千月
松永みよこ

悼 木村リュウジ
竜胆や記憶の中の傘開く なつはづき
星流る原信夫のマンボNo.5 赤野 四羽

冬瓜はこの世の事を見逃さず 武馬久仁裕

■第六回ジャズ句会のご案内 ■
日時 十一月十一日(土) 十三〜十六時
申込 tokai.genhai.seinebu@gmail.com

永年会員、自薦句
(昭和十六年〜十七年生れ)

※掲載は異別の到着順

◆愛知県

貝殻の風鈴青き音がする
なつめの実嬉し過ぎてもねむれない

東区 渡邊 淳子

かあさんは蛍の橋を越えて行きし
涼新た膝にずしりと赤ん坊

昭和区 浅生圭佑子

冬銀河指さし空につぶやけり
ふり返れば何ごともなし冬日和

安城市 大原 ヨリ

ペランダから雪の御嶽一札す
アガパンサススキライスキ片思い

千種区 松田 英子

鋳物屋の深夜も消えぬ冬燈
障の水新しき釜始め

安城市 増井 康子

極月のかたちになるまで折紙す
寒林を胸に抱えたまま逝けり

中川区 谷口 智子

実千両夫は自分を誉めている
振花や祖母の紙縫の針の如

豊川市 雪竹 紀子

赤のままこんなに咲いて子らどこへ
バンドネオン奏でし人は戦場か

愛西市 岩佐 信子

柏手のかすかなゆらぎ初詣
存へて蓬けたる幸鳥雲に

昭和区 星川佐保子

湯豆腐の少し冷めたる会話かな
冬青空この世の戦忘れぬて

豊橋市 河邊 満江

コンクリの壁落書ばいし萬紅葉
冬蝶の葉かげよりうき風となり

豊川市 雪竹 紀子

北名古屋 安田 幸代

岐阜県 高山市 水上美智子

三重県 伊勢海老や供えし父を偲びけり

初詣加賀友禅を着せあいて
多気郡 上平 仁美

梅林の傾斜は風の抜けどころ
落椿きのふの赤とけふの赤

伊賀市 中尾 節子

鉄屑の山匂ひ来る開戦日
どんど火に戦といふ字の舞上がる

伊賀市 鈴木みよ子

聞き役に徹してをりぬ日向ぼこ
曲がるたび変わる雪嶺一輛車

四日市市 大堀 祐吉

鳥帰る人は淋しき距離保ち
マスクしてひとりひとりの孤独かな

四日市市 村田佐和子

長靴の脱ぎ捨ててあり春の泥
春愁や振り返ること多くなり

津市 宮田登世恵

田に畑にこころに沁みる春の雨
復活の時ぞ来れる藁の臺

桑名市 中村 仿湖



新規会員、近詠句

(令和四年度後期入会者)

◆愛知県

冬の夜 甘いクレープ ヤケドする
かぶりつくホットドッグで冬が来た

春日井市 ウネメダイチ

澄みきつた空の青さや墟つけぬ
待つと言ふ時の長さや秋暮るる

西尾市 石川 道子

雲のむれ形変えるや冬の空
ふりつづく細かい粉はつもらない

名古屋区 杏星 杏忍

峡の音集めて迅し雪解川
デラシネの春昼の膝抱くばかり

昭和区 山内 基成

ばーば好きとはしゃぐ笑顔や冬ぬくし
水仙を束ねバケツで墓の道

安城市 大見 春江

白い息今朝はおならも凍りそう
頑張ると心に虹ができるんだ

犬山市 伊藤 孝恵

新年句会参加 4 年度新規会員各位



鉄塔の陰ほつぽつと初菫
橙の葉を冠に鏡餅

昭和区 磐田 小

一宮市 平井 利果

犬山市 青山 典子

犬山市 宮地 繁誠

岐阜県 生きゆくを風に託せる芒かな
押入れの引き戸の軋む秋の雨

揖斐郡 中野 等

湯屋の軒低くハープの氷柱かな
空腹の昼ひだまりの鴨の陣

揖斐郡 村山 温子

かくしごとあるらし桜餅の土産
スカートの寝押ししつかり卒業す

大垣市 村瀬佐智子

こゑ死すをこゑ熱れるか木菟と吾
ばせう枯る雨悉く抜糸かな

津市 水越 晴子

鈴の音立てて投げているどんど焼
さつま諸蜜の染み出る開戦日

四日市市 田中 裕子

インフレや臂から冷ゆるアルミ椅子
造形の不思議の極み枯芙蓉

四日市市 栗田 道弥

落葉焚軍手の軍になに想ふ
起重機か廃起重機か冬夕焼

多気郡 東 砂都市

初夢は奥飛驒温泉バイク旅
ペディキュアは赤冬露天湯にひとり

津市 菊山 沙英

山並の影絵となりし秋の暮
初旅の終着点はわが家なり

伊勢市 高橋 千典

第十八回現代俳句東海大会入選作品

令和四年十月三十日(日)
三年振り盛会裏に終了(残念ながら懇親会は中止)

◆大会賞

ひまはりや少女まつすぐ反論す

小津 由美

秀逸

実直な父の胡瓜の曲がりけり

上村えつみ

白桃や刃先すんなり核心に

金子 ユリ

時の日やアンモナイトの渦の中

渡邊 淳子

十二月八日一度明りを消してみる

くにたみつる

図書館に指紋をのこし卒業す

小南千賀子

麦ほこり昔こらに馬の市

星野 繭

突き刺さるひまわり僕の空がない

大西 健司

ちちる鳴きやみたる闇の深さかな

石川美智子

ひと口の水の重さや原爆忌

加藤由紀子

就中^{なかんく}倅せさうな金魚買ふ

大西 誠一

草引くと母の背中が見えてくる

前田 秀子

素足から伸びゆく少女立葵

林 和琴

白萩を活けるこの先どう生きる

横地かをる

原発の沖漂へる海月かな

八木茂都子

終戦忌みな正面を向く写真

川合いつ子

風貌は反骨のかたちラ・フランス

野崎 妙子

触るるものみなやはらかし涼新た

丹羽 知子

ゴスペルの突きあげる手や天高し

榊原美紀子

初盆の擦つては消ゆる燐寸かな

野島 啓子



佳作

弟よ銀河の船に乗るころか

浅生圭佑子

水匂ふ青田の風を懐に

足立 敏子

縁側に菓草干して冬を待つ

伊藤眞智子

一日の力抜きたる籐寝椅子

大西 誠一

秋日和記念切手を舐めて貼る

奥山 和子

嘘一つ握りつぶして夏見舞

中尾 節子

ゆたかなる貧しさのあり赤のまま

中村 正幸

逢ひたいと思ふ人ゐる帰省かな

西村 郷子

いま声に出し語らねば蟬時雨

野崎 妙子

踊りの輪ほどけ瀬音の届けけり

成木 幸彦

遠雷や確かに父の声がする

平山 圭子

秋晴のすべてが僕のためにある

堀内 晴斗

新蕎麦のこれが最後か飯田線

増井 康子

まつさらな消しゴムで消す夏の恋

松末 充裕

山峡の人濃くなりぬ野分あと

横地かをる

選者特選作品

後藤 昌治 選

生きてゐる精一杯の蟬時雨

桜本 純子

伊藤 政美 選

図書館に指紋をのこし卒業す

小南千賀子

橋本 輝久 選

雑巾がきちんと干され終戦日

谷口 智子

永井江美子 選

触れ合うて狗尾草に音のなし

上村えつみ

中村 正幸 選

けものめく少年の素手盆太鼓

前田 典子

武馬久仁裕 選

入道雲に集まつてゐる少年兵

成木 幸彦

大西 健司 選

秋の蠅ラクダの腹の毛に絡む

東野 礼豊

平賀 節代 選

ひまはりや少女まつすぐ反論す小津

由美

小津 由美 選

実直な父の胡瓜の曲りけり

上村えつみ

前野 砥水 選

初盆の擦つては消ゆる燐寸かな

野島 啓子

福林 弘子 選

初盆の擦つては消ゆる燐寸かな

野島 啓子

浅生圭佑子 選

突き刺さるひまわり僕の空がない

大西 健司

石川 裕子 選

耳栓のひとつ失ふ夜のプール

星野 繭

石川美智子 選

胎の子が動いた蹴つたお月さま

近藤 好子

稲葉 千尋 選

何故死じやいけないのですか先生

くにたみつる

大堀 祐吉 選

本当に遠いとおもふ遠花火

伊藤 政美

神田ひろみ 選

扇置くころ沙色の海と空

白石喜久子

成木 幸彦 選

麦ほこり昔こらに馬の市

星野 繭

ひらの浪子 選

突き刺さるひまわり僕の空がない

大西 健司

村山 恭子 選

白桃や刃先すんなり核心に

金子 ユリ

武藤 紀子 選

弟よ銀河の舟に乗るころか

浅生圭佑子

横地かをる 選

ちちる鳴きやみたる闇の深さかな

石川美智子

今井 真子 選

沈黙の並んでゐたるラ・フランス

宮田かつこ

☆全国俳誌協会第四回新人賞特別賞

青年部の後藤麻衣子さんが受賞しました
うすだいだいのクレヨンで塗る春の人
風船の破片集めて夏に入る

第二十四回 東海地区現代俳句賞

◆大賞

「冬の虹」 石川美智子

初蝶や土手にほのかな日の匂ひ
 里人の会釈やはら草若葉
 初風や末広がりの衣浦
 喪の庭を過ぎゆく蝶の濡れてをり
 てのひらに如来の重み八重椿
 沙羅の花白を離るる白さかな
 海色に染まりサーファー帆を立てぬ
 翡翠の忘れていつた水の音
 水打つて夕星ひとつみつけたり
 山繭にそつと触れたりやはらかし
 ひたすらに命いのちどう宝沖繩忌
 やつとかめ顔を出したる亀の子は
 釘を打つふしくれの手や秋夕焼
 振り向けば半月板のやうな月
 ひとすぢの風に添ひたる稲の花
 刈田焼き跡黒々と匂ひけり
 綿虫の海の色して光りをり
 冬日さす大樹の陰の忘れ鎌
 わかりあへぬ寒九の雨や心字池
 冬の虹空が大きく息をする

❖ いしかわみちこ（昭和十九年生れ。愛知県安城市市在住。「韻」同人）

身に余る賞を頂き心より感謝申し上げます。見えるものの陰にある見えないものを追って、心に響く匂づくりをしたいと思っています。

奨励賞（抄出十二句）

「風花の時間」 森本 昭子

春の雪ひかりのしづく零しつづ
 蘊蓄の尽きることなく寝釈迦かな
 鳥曇り遙かにジェットコースター
 山桜咲きて神の座定まりぬ
 御堂より見よと泰山木の花
 川底の石の大小新樹光
 憂鬱といふほどでなく梅雨明けの
 幻覚のはざまに咲けり水中花
 半島のうすうすとあり鳥渡る
 遠くまで見ゆる白波暮の秋
 風花の時間しづかに過ぎてゆく
 猟銃と犬と山茶花そして父
 （もりもとしようこ・「菜の花」同人）

奨励賞（抄出十二句）

「蘇る」 山内 基成

比叡から湖みはるかす若葉かな
 さらしくちら六塵の世の噛みこたへ
 更けてより馴染んできたる祭下駄
 唐破風の路地の銭湯蟬しぐれ
 髭あたる泡の眩しき晩夏かな
 いなびかり静かに速くなりし手話
 背広脱ぎ兄も加はる月の宴
 伊吹嶺の雲照り翳る稲の秋
 野分晴れ矢板打ち込む頭首工
 地芝居の藍隈買つて出でにけり
 はだか電球屋台はみだす富有柿
 単身の荷を解く一間夕紅葉
 （やまうちもととなり・「韻」「鷹」同人）

佳作（抄出八句）

「母の匂ひ」 太田香代子

曼珠沙華母の匂ひの近くあり
 風の道折れて曲つて赤蜻蛉
 樽縁の冬の日差をほしいまま

さくらさくらだれのものでもなく咲きぬ

つばくらめまつしぐらなる少年期

風吹くたび大きくなりし黒揚羽

向日葵や爪先立ちで見える明日

法師蟬森透明になつてをり

（おおかたよこ・「青の会」会員）

佳作（抄出八句）

「白むくげ」 朴 美代子

豆の花真昼真白い告知受く
 微熱つづく今日独歩忌と思ひけり
 少しずつ狂う確かさ水中花
 生きているかすかにきしむ指の骨
 風花や無言で帰る見舞客
 白粥に梅干一個冬の月
 闇硬しひりひり病みて年の夜
 一族の滅び異国に凍つる墓
 （ぼくみでいじや・「菜の花」「軸」会員）

佳作（抄出八句）

「秋の雨」 村瀬佐智子

髪梳けばほのかな温み秋の朝
 死化粧を妹にほどこす秋の雨
 顔覆ふ白布に紅や秋湿り
 喪の夜の濡れた空気や秋暑し
 いつも吾に付き来し妹よ星流る
 まなかひに二人の幼秋の虹
 百日紅ふはり茶毘所の空ふはり
 新涼の骨壺包む布白し
 （むらせさちこ・「菜の花」会員）

佳作（抄出八句）

「萬の向日葵」 度会さち子

山姥の髪ふきあげて根尾桜
 神杉をかけのぼりたる藤白し
 五月来る迦陵頻伽の翅に風
 叡山の牡丹あかりの地獄絵図
 貝殻骨美しき少年入道雲

木星あかし萬の向日葵凝れ
 前方後円墳途方もなき夕焼
 白鳥を帰し火酒を少し飲む
 （わたらいさちこ・「郭公」同人）

令和四年度東海俳句賞選考経過

事務局・平賀 節代

令和四年十一月十日（木）名古屋駅前、ウインクあいちに於いて「第二十四回東海地区現代俳句賞」の選考委員会が開かれた。選考委員は、会長の委託した後藤昌治氏、橋本輝久氏、伊藤政美氏、中村正幸氏、武馬久仁裕氏、大西健司氏、神田ひろみ氏の七名と会長の八名。総会後から応募を受け付け、締切りの九月十五日までに寄せられた作品は過去最高の三十八編、初応募が増えたことが特徴である。これらの作品を無記名でコピーし、選考委員へ郵送。予備選考を依頼し、予選順位一位から七位をそれぞれに選出。一位七点、二位六点、三位五点と順に配点し集計した。

当日は五名の選考委員の参加を得た。欠席の方々から事前に届いていた選考意見を加え、厳正に審査が進められた。作者を伏せて、点数の入らなかつた作品から全作品を検討し、七作品を最終的に残した。

この一句というのではないが二十句がきちんと書かれているとの評価と、唯一全選考委員から得点を得た「冬の虹」を大賞に決めた。また、一位票も得て得点の高かつた「風花の時間」「蘇る」の二作品を奨励賞に、二桁の得点を得た四作品を佳作と決めた。

東海地区現代俳句協会

第二十七回新年俳句大会受賞作品

令和五年二月十九日(日) 於ける名古屋駅前ウイंकあいち



大賞 「冬の虹」 石川美智子
奨励賞 「風花の時間」 森本 昭子
「甦る」 山内 基成
佳作 「母の匂ひ」 太田香代子
「白むくげ」 朴 美代子
「萬の向日葵」 度会さち子
「秋の雨」 村瀬佐智子

応募される皆さんへ、選考委員から次のような助言をもちょう。

『基本中の基本が出来てはじめて上達する。一句一句を丁寧に書くこと、誤字、脱字、仮名遣いに気をつけてほしい。ことばの流れが整っていない、なめらかでないのは未熟。タイトルは作品の一部で、タイトルが決まっていることは大切。どう並べるか、その作業の中でそぐわない句も見えてくる。楽しんで二十句をまとめ応募して欲しい。思いつきや、報告でなく、書きたいと思うことを俳句形式にまとめ。何回も挑戦してゆく中でまとめ方も解ってくる。応募することが勉強になります。』
来年も多くの作品が寄せられることを期待します。

〈選考委員一位の作品〉
永井江美子 「風花の時間」 森本 昭子
後藤 昌治 「蘇る」 山内 基成
橋本 輝久 「冬の虹」 石川美智子
伊藤 政美 「風花の時間」 森本 昭子
中村 正幸 「冬の虹」 石川美智子
大西 健司 「萬の向日葵」 度会さち子
武馬久仁裕 「棕櫚の花」 ひらの浪子
神田ひろみ 「白むくげ」 朴 美代子

会長賞

鮫鱈をつつく不発弾かもしれず

村山 恭子

秀逸賞

草の花いつもどこかが揺れている

向井 泰子

手紙ならやさしくなれる窓に雪

岩田 典子

一冊を抜きし書棚の冷え始む

原しようこ

綿虫や記憶が薄れゆくやうに

伊藤 政美

枯木星街に心のクリニック

星野 蘭

喪服とは裏まで黒し冬立つ日

木村 晴代

行くあてのなき者入れて芒原

伊藤 昌子

冬の蚊も叩けぬ人となりにけり

くにたみつる

釣れる人釣れない人も鯨日和

長坂 敏彦

噴く飯の湯気の向ふの戦かな

今井 真子

冠雪の伊吹や大き大根引く

林 弘

よく枯れて憂さを捨つるに良き野かな

犬飼 孝昌

死ぬるまで生きねばならず大根煮る

田中 玲子
山本 浩子

佳作

冬の月女阿修羅になることも

森本 昭子

絶食の後の白粥日脚伸ぶ

星野 蘭

風も日も伊良湖芋切り干し日和

杉村 克代

正しいと信じ切つたる懐手

寺田 豊

着膨れてなかなか出ない本音かな

川合いつ子

屑箱の底を叩いて年の暮

中尾 節子

抽斗の何が詰まる十二月

八木茂都子

そつと肩に触れることだけ寒見舞

宮田かつこ

蜂蜜のびんを逆さに寒の入り

渡邊 淳子

竹馬の少年父を見下ろせり

東海 憲治

竹馬の少年父を見下ろせ

東海 憲治

草の花いつもどこかが揺れてゐる

向井 泰子

一錠の重き呑みこみ冬ざるる

谷口 智子

武馬久仁裕 特選

ざらざらと包丁を売る年の市 田中 青志
大西 健司 特選 村山 恭子

平賀 節代 特選
釣れる人釣れない人も鯨日和 長坂 敏彦
小津 由美 特選

冬の月女阿修羅になることも 森本 昭子
前野 砥水 特選

冬の虹火にのる薬缶に手をかざす 車 春吉

福林 弘子 特選
痛哭の民よ暖取る火はあるか 伊藤 昌子
浅生圭佑子 特選

あつたかい人と暮らしてあたたかし 渡邊 淳子

石川 裕子 特選
一冊を抜きし書棚の冷え始む 原しようこ

石川美智子 特選
冬の月女阿修羅になることも 森本 昭子

稲葉 千尋 特選
蛇の衣(三宅一生) 逝きにけり 藤尾 州

大堀 祐吉 特選
綿虫や記憶が薄れゆくやうに 伊藤 政美

神田ひろみ 特選
そつと肩に触れることだけ寒見舞 宮田かつこ

成木 幸彦 特選
猫の手も借りた師走猫のみて 藤森 貞子

ひらの浪子 特選
噴く飯の湯気の向ふの戦かな 今井 真子

村山 恭子 特選
噴く飯の湯気の向ふの戦かな 今井 真子

武藤 紀子 特選
手紙ならやさしくなれる窓に雪 岩田 典子

横地かをる 特選
戦争の新聞記事に惹つつむ 小南千賀子

今井 真子 特選
雪蛭郡上一揆の碑裏発つ 岩佐 信子

第十五回鈴木しづ子顕彰会

小中高生いのちの俳句大会
全国大学生俳句選手権大会

■小中高生いのちの俳句大会

日時 9月9日(土) 午後1時より
会場 犬山市民文化会館・大ホール
応募 規定用紙又は原稿用紙
俳句三句、氏名、住所、電話
学校又は結社名、出席可否記載
未発表作、類似二重投句は取消
期間 4月15日〜7月15日迄送付
賞 いのちの俳句大賞、犬山市長賞
他犬山市関連各種、中日新聞社
東海現代俳句協会賞、他多数
東海現代俳句協会会長、役員
送付 〒484-0894
犬山市大字羽黒字二町57番
鈴木しづ子顕彰会事務局
宮地瑛子 宛
TEL 0569-67-9325

■第六回全国大学生俳句選手権大会

日時 9月9日(土) 午後2〜5時
会場 犬山市民文化会館・入場無料
兼題 「アルバイト」又は自由題
問合せ 〒460-0002
名古屋市中区丸の内3-16-29 4階
全国大学生俳句選手権大会事務局
TEL 052-951-3852
Fax 052-962-3256
メール obob@dai.gakuhaiiku.com



ライブ配信あり



■俳句大賞受賞者&新年俳句大会会場



■新たに七十歳未満を対象とした、東海現俳社青年部を新設し、毎偶数月第三土曜午後には句会を開催いたします。
第一回句会 / 4月15日(土)
十三時〜十六時半 / 会費五百円
名古屋市公会堂第二集会室 / 鶴舞駅
当季雑詠三句 / 会員外可 / ライン又はメールで4月8日迄

有本仁政へ連絡下さい

〒484-0083
犬山市東古券563-2
litomas@nvd.
bi Globe.ne.jp



■会報第七六号に掲載の氏名等に間違いがあり、左記訂正しお詫び致します。

- 二頁下段 早川美千代 ↓ 早川三千代
大田嘉代子 ↓ 太田嘉代子
藤岡せい子 ↓ 風岡せい子
吟行地 / 名和町 ↓ 明和町
三頁下段 早川美千代 ↓ 早川三千代

◆訃報

- 伊藤ゆう子(三重県) 令和四年四月
吉田きみ子(三重県) 令和四年七月
中根 唯生(愛知県) 令和四年七月
佐藤 寛一(三重県) 令和四年十月

東海地区現代俳句協会
令和5年2月19日
(単位:円)

令和5年度会計予算(案) & 4年度会計決算報告等

令和5年度会計予算 (案)

東海地区現代俳句協会
令和5年1月1日
(単位:円)

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	79,314	事業費	
助成金	550,000	東海俳句賞	110,000
特別会計より	300,000	吟行句会	90,000
		会報発行	190,000
		総会・新年俳句	130,000
		理事会	65,000
		事務局関係費	250,000
		雑費	3,000
		予備費	91,314
収入合計	929,314	支出合計	929,314

令和4年度会計決算報告書

自 令和4年1月1日
至 令和4年12月31日
東海地区現代俳句協会
令和4年12月31日

【収入の部】 (単位:円)			
項目	予算	実績	増減額
助成金	600,000	578,800	▲21,200
雑収入	0	2	2
前年度繰越	250,125	250,125	0
合計	850,125	828,927	▲21,198

【支出の部】 (単位:円)			
項目	予算	実績	増減額
東海俳句賞	100,000	100,979	979
吟行句会	90,000	67,036	▲22,964
会報発行	170,000	184,588	14,588
総会・新年俳句	100,000	124,000	24,000
理事会	65,000	39,508	▲25,492
事務局諸経費	230,000	230,000	0
雑費	3,000	3,502	502
予備費	92,125	0	▲92,125
合計	850,125	749,613	▲100,512

収入828,927-支出749,613=差引次年度繰越金79,314円

上記の決算報告書は適正に処理されている事を認める

令和5年1月1日

会計監査

今井真子



令和四年度事業報告		令和五年度事業計画	
区分	場所	区分	場所
その他	<p>前年度総会後</p> <p>愛知 13人 三重 8人 岐阜 4人</p>	<p>9月3日(出)</p> <p>犬山文化会館 オンライン配信</p>	<p>令和四年度総会及び第二十六回新年俳句大会</p> <p>令和五年度総会及び第二十六回新年俳句大会</p>
その他	<p>11月10日(木)</p> <p>午後 午前中選考委員会</p> <p>ウインクあいち</p>	<p>11月30日(日)</p> <p>ウインクあいち</p>	<p>11月10日(木)</p> <p>ウインクあいち</p>
その他	<p>5月15日(日) 8:30～16:30</p> <p>犬山フロイデ</p>	<p>ウインクあいち</p>	<p>ウインクあいち</p>
その他	<p>久々の新年句会並びに総会が、十五人の新規会員を含む六十余人の参加にて開催できた。本年度は本部の財団法人化に伴い東海現代俳句協会としても各種の改革事項と、会員拡充政策の検討など多岐に渡る報告事項があった。(今後適時報告される)</p> <p>会長賞 鮫鱈つく不発弾かもしれず 村山 恭子</p> <p>久々の吟行会は天候に恵まれ六十名参加。犬山城下の散策、長良川、鵜沼宿まで足を伸ばされた人も。大賞 三叉路のつば城へ青芭蕉 大見 春江</p> <p>秀逸 学舎のからたちの花しず子の忌 宮地 瑛子</p> <p>城下町知りつくしたる夏燕 八木茂都子</p> <p>水音も葉擦れの音も五月かな 平賀 節代</p> <p>くた伏すからくり人形山車の底 神田ひろみ</p> <p>九月末日までに寄せられた応募作品は二十八編と過去最高数。会長と会長の委託する七名の選考委員で選考。詳細は会報に記載。</p> <p>俳句賞 石川美智子氏「冬の虹」</p> <p>奨励賞 森本 昭子「風花の時間」</p> <p>山内 基成「蘇る」</p> <p>佳作 太田香代子「母の匂ひ」</p> <p>村松佐智子「秋の雨」</p> <p>朴美 代子「白むくげ」</p> <p>度会ごち子「萬の向日葵」</p>	<p>青年部初の吟行会、桑名市にて三十五名参加</p> <p>加あり。大会参加者五十三名</p> <p>大会賞 ひまはりや少女まつく反論す小津由美</p> <p>講演 齋藤吾朗先生「モノ・リザからのおくりもの」</p> <p>青年部初めの吟行会、桑名市にて三十五名参加</p> <p>吊ればすく川風つかむ軒風鈴 杉山 悦子</p> <p>ジャズ句会二十名参加、他県青年部参加あり</p> <p>オンライン句会、特別ゲスト(なつはづき、赤野四羽、神野紗希、黒岩徳将)を迎え四回開催</p> <p>小中高応募作品(協会役員が選者を担当)</p> <p>第五回大学生俳句選手権、神野紗希氏をゲストに三年ぶりに開催</p>	<p>令和五年度総会及び第二十七回新年俳句大会</p> <p>9月9日(出) PM1:00～PM2:00</p> <p>ウインク あいち</p> <p>犬山市民文化会館</p>
その他	<p>10月29日(日) PM1:00～PM4:30</p> <p>懇親会</p>	<p>ウインクあいち 懇親会場所未定(会費の補助あり)</p>	<p>10月29日(日) PM1:00～PM4:30</p> <p>懇親会</p>
その他	<p>5月21日(日) AM8:30～PM4:00</p> <p>三重担当 いつものみや 地域交流センター(近鉄齋宮駅 徒歩3分) 理事会開催</p>	<p>ウインク あいち</p>	<p>5月21日(日) AM8:30～PM4:00</p> <p>三重担当 いつものみや 地域交流センター(近鉄齋宮駅 徒歩3分) 理事会開催</p>
その他	<p>11月9日 AM11:00 PM 4:00</p> <p>ウインク あいち</p>	<p>ウインク あいち</p>	<p>11月9日 AM11:00 PM 4:00</p> <p>ウインク あいち</p>
その他	<p>募集期間 総会終了後～10月10日迄</p> <p>会員諸氏の応募を乞う 年代別の賞を検討</p>	<p>有松・鳴海 紋り会館 ジャズ句会 カフェあらたると オンライン句会(顔合せ)</p>	<p>募集期間 総会終了後～10月10日迄</p> <p>会員諸氏の応募を乞う 年代別の賞を検討</p>
その他	<p>未発表二十句・題をつけ事務局まで郵送 参加費無し・現代俳句協会員に限る</p> <p>住所 千五百一〇三五 三重県伊勢市勢田町八五一一六 平賀節代方 東海地区現代俳句協会</p> <p>賞金として俳句賞には三万円、奨励賞に一万円、佳作に二千円進呈。ふるって応募して下さい。</p> <p>尚、応募用紙には年齢と共に、仮名遣いの記載もお願いします。</p>	<p>絞りの街有松にて。定員二十名参加費無料</p> <p>ジャズ句会・飲料代など必要定員二十名</p> <p>オンライン句会、参加無料(回計画中) 6/30</p> <p>9/30 詳細は青年部福林まで、現在青年部二十六名 地区の青年部の年齢を引き上げる。</p>	<p>未発表二十句・題をつけ事務局まで郵送 参加費無し・現代俳句協会員に限る</p> <p>住所 千五百一〇三五 三重県伊勢市勢田町八五一一六 平賀節代方 東海地区現代俳句協会</p> <p>賞金として俳句賞には三万円、奨励賞に一万円、佳作に二千円進呈。ふるって応募して下さい。</p> <p>尚、応募用紙には年齢と共に、仮名遣いの記載もお願いします。</p>
その他	<p>総会一時十五分～二時</p> <p>新年俳句大会二時十五分～四時四十分</p> <p>事前投句二句会員のみ投句無料</p> <p>本部の財団法人化に伴い、地区協会の活動は自由に行うにしても良い。会費納入から一人二千元地区に下りるのは変わらない。地区独自の会員を設けることができる。(案:千円) 高齢や財政的理由で辞めてゆく人を組織化。本部に入会者は、活動する地域を選ぶ事ができる。役員は補充をする。</p> <p>高齡の方を中心に会員が減りました。一人が一人に声かけ会員を増やす。</p>	<p>小中高生いのちの俳句大会・全国大学生俳句選手権大会の選考をつとめる</p> <p>(いのちの俳句表彰を大学選手権の前に) 詳細は六頁記載</p>	<p>当日嘯句二句</p> <p>参加費無料 会員外も参加可(新しい人を誘いこるを機に入会を勧めよう)</p> <p>齋宮は整備がすすみ、平安の建物も復元。雲雀、葦タンポポと自然が一杯。博物館も。古代米の育つ田圃、齋王の禊の被川と貝ごころ満載です。</p>

地区会報発行三月・六月の二回

会報発行三六月

理事会 随時(必要に応じて)

令和5年初夏の吟行句会ご案内

天照大神に仕えた代々齋王の 館跡にて開催

◇記

- 日時** 令和5年5月21日(日)
8時半～16時(自由散策・雨天決行)
- 場所** 三重県明和町「いつきのみや地域交流センター」
Tel 0596-63-5315
- 日程**
- 受付 9時30分より
 - 投句締切 12時00分(時間厳守)
当日囑目句2句(投句用紙に楷書で記入)
 - 休息場所 齋宮駅近く「いつき茶屋」
軽食コーナーは小規模なので混雑します。持込みは出来ませんが、近くにコンビニもありませんので弁当を予め手配して、茶屋か吟行会場又は屋外で召し上がる事をお勧めします。
 - 昼食終了後にて句会開始12時45分
- 交通** 松阪にて伊勢方面の近鉄各駅停車に乗換4駅10分齋宮駅直ぐ(周辺に散在する齋宮跡史跡を巡る)



★齋宮は「いつきのみや」とも呼ばれ齋王の宮殿跡です。齋王は天皇に代わり伊勢神宮に仕える為、天皇の代替わり毎に皇族女性が選ばれ都から派遣されました。伝承時代には日本武尊に草薙の劔を授けた倭姫命が有名です。史実上は天武天皇670年頃から、後醍醐天皇まで660年間に60余人の齋王が記録されました。

東海地区現代俳句協会
岐阜県吟行会準備委員会

※申し込みは準備の都合上4月末までに下記へ連絡をお願いします。(会員以外も歓迎、参加費無料)

事務局 平賀節代 Tel & Fax 0596-25-6849
〒516-0035 伊勢市勢田町851-6

第二十五回東海地区現代俳句賞募る

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地区俳句活動の進展と充実を図るため、左の要領で作品を募集します。

応募作品 雑詠二十句(未発表に限る。受付後の作品変更は不可)

○B4縦書(紙サイズ厳守)

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

○一枚目「題名」郵便番号・住所・電話番号・俳号(氏名)

二行置きに記載

○二枚目 一行目から作品を並記し、二十行目までに二十句収める。

※応募原稿は返却しない。

応募資格 東海地区現代俳句協会会員

応募料 なし

締め切り 令和五年十月十日(火)

送稿先 (当日消印有効)

〒五一六〇〇三五 三重県伊勢市勢田町八五一六

東海地区現代俳句協会事務局

平賀節代方「東海地区現代俳句賞」と朱記のこと

賞状および賞金三万円

・奨励賞・佳作 若干名

賞状賞金一〇・五万円

※定例総会席上にて授賞式

頭彰後発行する会報紙上

会長が委嘱する地区役員

必記事項 年代別選考の為、応募用紙に年齢と仮名遣いを忘れずに。

顕彰 ・東海地区現代俳句賞一名

賞状および賞金三万円

・奨励賞・佳作 若干名

賞状賞金一〇・五万円

※定例総会席上にて授賞式

頭彰後発行する会報紙上

会長が委嘱する地区役員

東海地区現代俳句協会役員一覧

顧問 後藤 昌治 橋本 輝久

会長 伊藤 政美

副会長 永井江美子

会 長 中村 正幸 武馬久仁裕

副会長 大西 健司

事務局長 平賀 節代

経理部長 小津 由美

広報部長 前野 砥水

青年部長 福林 弘子

理事 浅生圭佑子 石川 裕子

石川美智子 稲葉 千尋

大堀 祐吉 神田ひろみ

成木 幸彦 ひらの浪子

村山 恭子 武藤 紀子

横地かをる

会計監査 今井 真子

◇協会本部役員

顧問 伊藤 政美

副会長 永井江美子

理事 中村 正幸 武馬久仁裕

大西 健司 平賀 節代

東海地区現代俳句協会会報 第七十七号

令和五年三月三十一日発行

発行者 永井 江美子

編集 前野 砥水

印刷 名古屋市中村区猪之越町三十一―五 ヨサ美印刷

事務局 平賀節代 方

三重県伊勢市勢田町八五一―六